

羊飼い達に知らされたイエス誕生の出来事は、「民全体に与えられる大きな喜び」であり、「飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子（イエス）を見つける」ことが、その喜びのしるしであるとルカ福音書は教えてくれています。「飼い葉桶」、それは家畜の餌箱…きらびやかで、高価で、美しいとは言えない所です。まさか、そんなところに救い主なんて生まれまいだろうと思われていた所です。しかし、羊飼い達はその「飼い葉桶」の中に、自分たちの救いとその喜びを発見していくのでした。

『はっぴいさん』（荒井良二著）と言う絵本があります。そこに登場してくる男の子と女の子は、願い事を叶えてくれると信じられていた「はっぴいさん」に会うために、山頂を目指します。二人は、互いに何をお願いしに来たのかと尋ねました。男の子は「なんでもノロノロなので、どうしたらノロノロじゃなくなるのか聞きたかったんだ」と言い、女の子は「なんでも慌てるので、どうしたら慌てなくなるのか聞きたかったの」と言います。その後、互いにこう言い合うのでした。「あなたがノロノロなのは、丁寧だからだと思うわ」。「君が慌てるのは、なんでも一生懸命だからだと思うよ」。二人は、「はっぴいさん」には会えませんでした。自分の中にある否定的なところ、価値を見出せないところ、美しいとは思えないところ、そのところに、新たな価値と救われる喜びを発見して帰っていくのでした。もちろん、「ノロノロ」や「慌てること」が、どんな場合でもOKということではないでしょう。ですがその中には、その人の命を輝かせているものも確かにあるということなのです。

イエスは、ご自分を裏切っていく弟子達の歩みを見据えて、「立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」（ルカ 22:32）と語りました。弟子達にとって、忠誠を誓ったはずのイエスを見捨て、裏切ってしまった経験は、価値の低い、とても美しいとは感じられないようなものであったはずですが、しかしそのところに、兄弟達を力づけるものがすでに始まっていることをイエスは見出しておられました。自分の中にある否定的なところ、価値を見出せないところ、美しいとは思えないところ、こんなところに喜びなど見出せるはずがないと思えるところ、それ故に苦しんでいるところ、そんなところに、すでに全く新しいものが始まっている、神様から祝福されたものを発見することで…それが飼い葉桶の中に示された私達の喜びのしるしであるように思います。その喜びのしるしを探す羊飼い達の旅に、私達も連なって参りましょう。「さあ、ベツレヘムへ行こう、主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」。

（文責：望月達朗牧師）

